

あいぽーと通信

令和7年
(2025)
9月発行
第74号

トピックス
Topics

- 令和7年度人権教育啓発リーダー養成講座(前期)第2回「見えない壁を越えて～外国人住民とつながる地域のか」～おとなりさん・ファミリーフレンド・プログラム(OFP)
- あいぽーと徳島 サテライト講演会(県西部)「若年性認知症の母と生きる～介護する人もされる人も幸せを目指して～」
- 令和7年度人権教育啓発リーダー養成講座(前期)第3回「かすかなSOSへのアンテナと傷を受けた人の声を聴くこと」
- 大島青松園訪問学習を実施 ●あいぽーと施設見学・あいぽーとスタディ ●あいぽーと徳島情報



あいぽーと徳島では、人権に関するさまざまなイベントを開催しています。

特集

令和7年度 人権教育啓発リーダー養成講座(前期)第2回
見えない壁を越えて～外国人住民とつながる地域のか～
おとなりさん・ファミリーフレンド・プログラム(OFP)

講師・楊 さん
特定非営利活動法人
アジア人文文化交流促進協会(アール)
理事長事務局長・フクンダ
令和7(2025)年7月8日開催

送り出す国から受け入れる国へ
日本では今、外国人移住者の増加が大きな話題ですが、じつはここ45年間ほどまでは、逆に日本人が海外に移住する時代が長く続いていたので、他国からの人を受け入れる国としてそんなに歴史がありません。2018年に日本政府から外国人労働者受け入れ拡大の方針が示されて以来増え続け、去年は230万人を超えて過去最高になっています。一方、日本で生まれる外国にルーツのある子どもたちは2021年には年間で3万2千人。それとも考えると、外国人・日本人という区別の境目がかなり変わってきています。超高齢化社会と少子化を背景に、外国人住民の増加は日本にとって欠かせなくなっていますし、産業を支えるだけではなく、地方によつては地域活動も外国人がいけないと回らないという声も聞きます。

外国人が何を求めているか
日本で暮らす外国人にとつて基本的なニーズとして、住居や医療、子育て、文化と社会とのつながりと言語的・心理的なサポートが挙げられます。国民皆保険制度は日本が世界に誇るべき仕組みではありますが、それ以外の面では外国人への対応に見えない壁ができていたりします。なぜこのようなことになっているかとい

うと、日本政府として移民政策を取らないということをして30年40年と言い続けてきているので、日本にとって移民は他国の問題で、外国人が日本で長く暮らすとは想定されなかったことが大きいと思います。

外国人が最初に日本に来たとき、社会とのつながりが全くなないので自分のスタイルを維持しようとし、日本人から見ればそれは浮いた存在に見えることがあります。そこから少しずつ日本人の知り合いを増やしていくことができれば、日本ではどうするのが一般的なのかかわかり、ようやく行動も変わっていきます。

しかし日本人と外国人というアイデンティティだけに頼るコミュニケーションでは互いの壁はなかなか消えませんが、排除や暴力にも繋がりにくくなります。例えば私自身、母国出身者であると同時に、母親、労働者、町内会メ



(音声コード)

あいぽーと徳島情報

あいぽーと通信 74号

令和7年度 人権教育啓発リーダー養成講座(後期)

どなたでもお申し込みいただけます。

参加無料

申込必要 ※5・6・7回目の申込受付は前日まで



申込みフォーム

第5回
日時 令和7(2025)年10月30日(木) 13:30～15:00
会場 アスティとくしま2階 第6会議室
徳島市山城町東浜傍1-1
演題 聞こえないから見えてくる世界
講師 尾中 友哉(おなか ともや)さん
NPO法人 Silent Voice 代表理事

第6回
日時 令和7(2025)年11月19日(水) 13:30～15:00
会場 アスティとくしま2階 第6会議室
徳島市山城町東浜傍1-1
演題 社会的処方
～地域とのつながりで元気になる方法
講師 西 智弘(にし ともひろ)さん
一般社団法人プラスケア 代表理事/川崎市立井田病院 腫瘍内科 部長

第7回
日時 令和7(2025)年12月2日(火) 13:30～15:00
会場 アスティとくしま2階 第6会議室
徳島市山城町東浜傍1-1
演題 ばあちゃんたち高齢者の「働く」の可能性を日本中に示す!
講師 大熊 充(おおくま みつる)さん
うきはの宝株式会社 代表取締役 経営者兼デザイナー

第8回
日時 令和8(2026)年1月16日(金) 9:00～17:30ごろ
会場 渋染一揆資料館(現地研修)
岡山県岡山市中区神下
定員 40名
あいぽーと徳島集合 貸切バスにて向かいます。
演題 渋染一揆の歴史から学ぶ
内容 渋染一揆についての講義
渋染一揆資料館見学
(周辺フィールドワーク含む)
第8回 申込締切日 12月19日(金)
申込多数の場合は抽選になります。
参加の可否については、12月25日頃郵便にてご連絡します。

第2回 県民講座 参加を希望される方は問い合わせください。
身近な異文化～アイヌ音楽の世界
日時 令和7(2025)年10月13日(月・祝) 13:30～15:00
会場 あわぎんホール(徳島県郷土文化会館) 5階 小ホール (徳島市藍場町2丁目14番地)
講師 千葉 伸彦(ちば のぶひこ)さん HAWHAWKE ハウハウケ

同和問題講演会
このまちが好きだから
～被差別の歴史をもつまちに生まれて～
日時 令和7(2025)年11月9日(日) 13:30～15:00
会場 とくぎんトモニプラザ大会議室 (徳島市寺島本町西1丁目5番地 アミコビル東館9階)
講師 藤尾 まさよ(ふじお まさよ)さん 崇仁発信実行委員会代表

サテライト講演会 県南部
みんながつくる みんなの学校
～地域に学校にすべての子どもの居場所を～
日時 令和7(2025)年12月23日(火) 14:00～15:30
会場 阿南市文化会館 夢ホール(阿南市富岡町西池田135-1)
講師 木村 泰子(きむら やすこ)さん 大阪市立大空小学校初代校長

「人権教育啓発・男女共同参画の推進」啓発行事
大切な人の思いとともに
今できること
日時 令和8(2026)年1月24日(土) 13:30～15:00
会場 テレコメディア ホール (徳島市山城町東浜傍1番地1 アスティとくしま2階)
講師 清水 健(しみず けん)さん フリーアナウンサー

主催・問い合わせ：あいぽーと徳島(徳島県立人権教育啓発推進センター) Tel.088-664-3719 ホームページ <https://www.aiport.jp/>

人権相談のご案内

あいぽーと徳島では、人権擁護委員・弁護士による人権相談を行っています。まずは電話にてご連絡ください。

Tel.088-664-3701

(徳島県多文化共生・人権課分室)
※相談日は都合により、変更される場合があります。

一人で悩まず
お電話を

- 人権擁護委員による相談 第2・第4土曜日(10:00～16:00)(12:00～13:00を除く) 面接相談及び電話相談
- 弁護士による相談(要予約) 第1・第3金曜日(13:00～16:00) 面接相談
- 弁護士によるインターネット上の人権侵害相談(要予約) 偶数月の第2金曜日(13:00～16:00) 面接相談

[編集・発行]

あいぽーと徳島

徳島県立人権教育啓発推進センター
指定管理者 特定非営利活動法人 徳島ヒューマンネット

〒770-0873 徳島市東沖洲2丁目14 沖洲マリンターミナルビル内
Tel.088-664-3719 Fax.088-664-3727
E-mail:info@aiport.jp

あいぽーと徳島 検索 <https://www.aiport.jp>

- 開館時間/午前10時から午後6時まで
- 休館日/月曜日(祝日の場合はその後の直近の平日)・年末年始(12月29日から1月3日まで)
- 公共交通機関のご案内 JR徳島駅前から徳島市営バス⑥番のりば・徳島バス[中央市場線]に乗りし、[沖洲マリンターミナル]にて下車。



お車を利用の場合、ビル西側駐車場の「あいぽーと徳島」と表記のある赤いコーンの場所に駐車してください。満車の場合は、ビル北側の県営有料駐車場をご利用ください。●3時間まで200円



(音声コード)

令和7年6月26日(木)「あいぽーと徳島 サテライト講演会(県西部)」を開催しました。

若年性認知症の母と生きる ～介護する人もされる人も幸せを目指して～

講師:岩佐 まり(いわさ まり)さん
フリーアナウンサー

認知症というのは病名ではなくて総称です。病名でいうなら、アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症、脳血管性認知症などがあります。すべてにおいて症状が違います。代表的なものがこの4つですけど、それぞれどのような認知症だろうと知って、対応していくことが重要です。これらのなかで65歳以上に多い認知症が、物忘れや徘徊があるアルツハイマー型認知症です。最初はとっても小さな物忘れから始まります。それがアルツハイマー型軽度認知障がい(MCI)と呼ばれており、これは認知症になる可能性が高い予備軍のことです。認知症はある日、突然にはならないのです。

認知症を発症して家族が一番つらい時期は初期です。病気も対応の仕方も制度も知らない、介護の仲間もない、家族だけで抱え込んでいる時期です。そのような中でも、一番苦しんでいたのは認知症の本人ということを忘れてはいけません。認知症が進むと暴言暴力が多くなりますが、介護をする立場の人が怒ったら、この暴言暴力は100倍になって返ってくる時があります。認知症の暴言暴力には理由があって、それを解消することができれば、そのような言動は減っていくことがわかっています。

認知症は、神様がくれたプレゼントという言葉がありました。認知症になったら本人は昔のいやなことを忘れるから実は幸せなんだよ、という考え方です。でも、私の母は本当に幸せなのでしょうか。子どもを産んだ喜び、育て上げた時間、そのすべてを忘れてしまうことを、私は、神様からのプレゼントとは思えません。

私はアルツハイマーという認知症の母の介護を行ってきましたが、そんなに悪いことではありませんでした。介護をしたからこそ見えた社会の問題や福祉制度、関わることのなかった介護職、医療職のみなさんの温かさ、私の世界は介護をしたからぐっと開かれた感がありました。周りのみなさんからは、あなたの幸せを一番に考えなさいよ、と言われることもあります。でも、そんな時、私は胸を張って、「今が一番幸せです」と言います。そして幸せにしてくれた母に感謝しています。

そして最後に私が言いたいことですが、介護が始まったら介護保険やその他の制度を十分に活用してください。介護保険外の制度やサービスもあります。介護は自分の人生と共に歩む中、自分の夢や希望も持ちながら、続けて行ってほしいです。

令和7年8月20日(水)「人権教育啓発リーダー養成講座(前期)第3回」を開催しました。

かすかなSOSへのアンテナと 傷を受けた人の声を聴くこと

講師:村上 靖彦(むらかみ やすひこ)さん
大阪大学人間科学研究科教授・感染症総合教育研究拠点CiDER兼任教員

支援が必要な場において、声が聴かれないことはたくさんの方が経験しています。声が聴かれるということは、声を聴いてくれるスペース(居場所)を確保することが大切になります。

子どもは安全な環境を準備し、過剰な管理を外したときに創造性を発揮します。大人の視点による「ラベリング(区分け)」のない場で、自然とコミュニティを創ります。評価・比較・ノルマを排したとき、声の聴かれる安全な空間が生まれます。安全を守るための管理は必要ですが、自由を妨げる、声を挙げられない管理は避けないといけません。

声を聴くということは、困窮状態のSOSを聴くということでもあり、願いごとを取り出す、願いごとを聴くということでもあります。管理のためのルールや思い込みを見直し、支援を必要とする人のSOSを見い出すには、それぞれの仕方いろいろな形のスペースの持ち方があるのだろうと考えています。

この講演会の内容は令和7年11月頃 HP配信する予定になっています。

令和7年6月19日(木) 大島青松園訪問学習を実施しました。

国立療養所大島青松園を訪問し、学芸員の方から、ハンセン病をめぐる歴史と現状について説明を受けるとともに、施設見学を行いました。



あいぽーと施設見学・あいぽーとスタディ



▲令和7年7月10日
神宅小学校4年生のみなさん

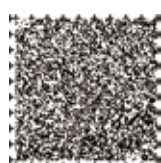


▲令和7年8月6日
沖洲小学校の教職員のみなさん



▲令和7年8月19日
徳島市婦人連絡協議会のみなさん

人権学習のため、上記のみなさんが来所されました。その他にも、「津田中学校2年生のみなさん」が、第1回特別展示期間中、長崎原爆パネル展を平和学習のため来所されました。



(音声コード)

ンバーというように、誰でも複数のアイデンティティを持っている存在なので、その時々で相手と共感できることを意識して取り組むことで、見方は変わってくると思います。移民の特徴として、努力家が多いと感じています。自分が生まれ育った場所や、そこで出来上がった人と人のつながり、言語も文化も生活習慣もすべて断ち切って別のところまで生きていくという選択肢をしたことがまず大前提にあるからです。それと同時に警戒心が強く、プライドが高い、差別に対して敏感であることが挙げられます。



■「おとなりさん」として 日常的に関わりを持つ

基本的な生活も重要ですが、日本人の社会の中で外国人も一緒に生きていけるという感覚をどうすれば持てるか、そういうことを支えていきたいと思っているのが私たちの活動です。『おとなりさん・ファミリーフレンド・プログラム(OFPP)』という仕組みは本当にシンプルなもので、日本人の方に「おとなりさん」というボランティアになつてもらって、外国人住民と1対1あるいは1家族対1家族で半年間活動をします。日本語を練習してもらい、日本の情報を教えてもらって、病院とか役所、学校など1人では難しいことを手伝ってもらって、純粹にお互いの国のことを話し合うなど自由に活動してもらって、もしボランティアの方が答えられないような質問が出てきたときは、私たちの団体で作る専門家

そんな彼らにとって日本での理解者や居場所がなければ、社会になじむ際の大きな壁になってしまいます。何回も壁にぶつかっていくうちにだんだんやる気を失ってしまい、同じ国出身の人たちと一緒にいるというすごく狭い世界に閉じこもってしまいます。

チームにつながられる体制をつくって活動しています。そうやって一般の住民と外国人住民が直接つながって顔が見える関係の中で、情報不足、暮らしぶらさ、孤立を感じないよう支え合っていく仕組みです。私たちの活動はこの5年間で、すごいスピードで参加者が増えてきており、現在高校生からシニアの方まで600人以上のボランティアが登録されています。自分も海外に住んだことがある、困っている人を助けたい、外国人との関係を通じて新しい発想や視野を広げたいなど、いろんな理由で参加してくれています。

「共に暮らす」ということは「共に変わる」ということです。

外国人だから支援される、日本人だから支援するというような単一で固定されているものではなくて、もっと柔軟に対等な関係を築くことは非常に大切だなと思います。日本人の方の中でも年齢や価値観などの違いによって接し方のギャップがありますが、決して外国人と日本人が分かり合えないとは思いません。積極的に外国人と関わることで発見できるものもあると思いますので、ぜひその機会を活かしながら社会全体が豊かなものになっていければと思っています。

講師プロフィール

楊 森(やん みゃお)さん

特定非営利活動法人アジア人文文化交流促進協会(JII)
理事兼事務局長・フアウンダー

2010年、NPO法人アジア人文文化交流促進協会(JII)を設立。

2001年来日、心理学を専攻。

十数年にわたり、日中間の政治・経済・文化に関する国際専門会議にて事務局兼通訳を務める。

大手企業向けの人材育成・人事・組織コンサルティング会社に11年間勤務し、海外現地法人に駐在時には日本人駐在員の課題解決に携わるとともに、現地法人の実務責任者も務める。

日本での出産・育児を契機に、日本に暮らす外国人住民の環境や課題に注目し、2018年よりJIIの活動に専念。

二児の母。



(音声コード)